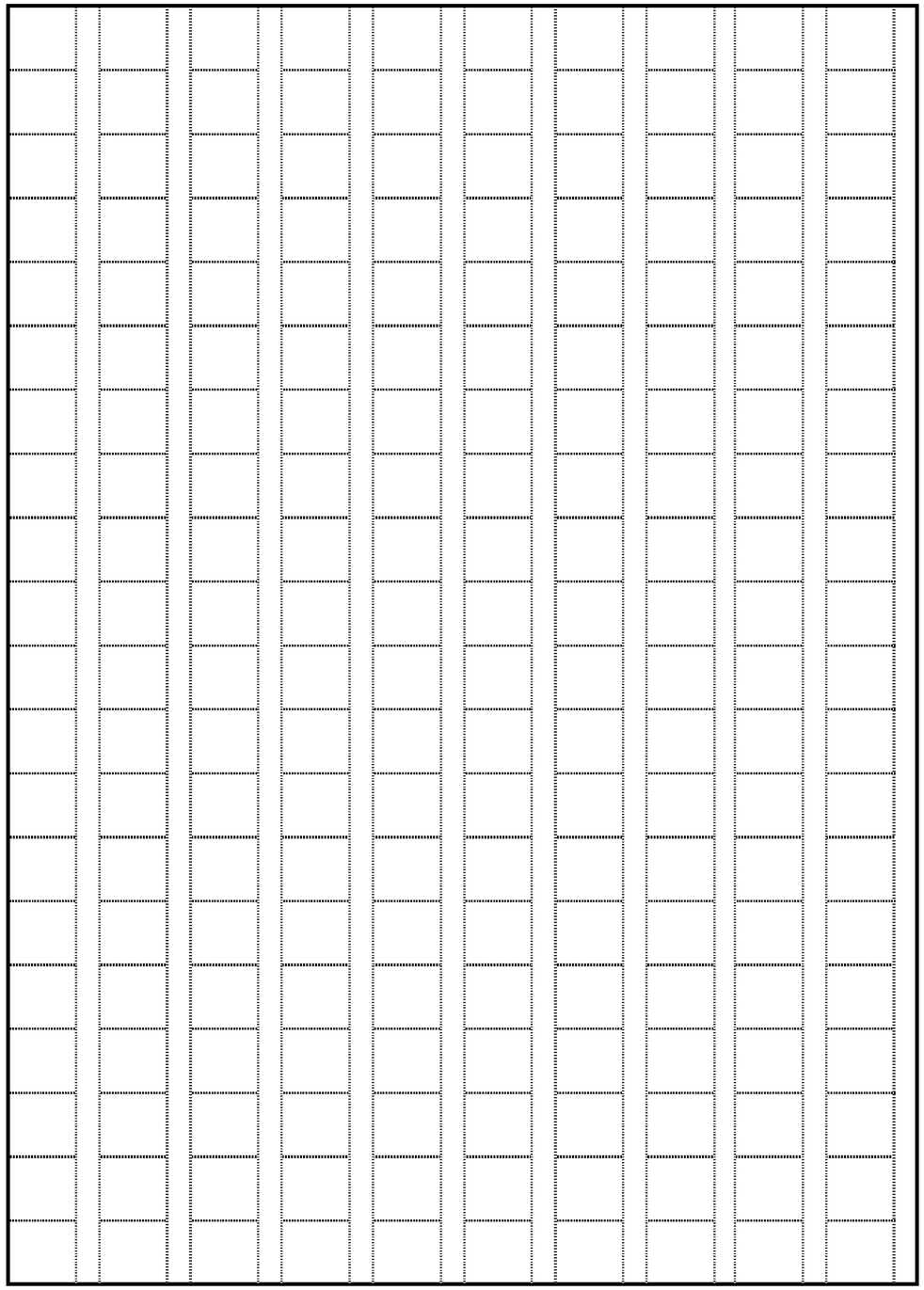
朗読部門では、予選で読む箇所に赤ペンで傍線を引くこと

2



千葉県高文連放送コンテスト

山折り

〔様式２－１（アナウンス・朗読部門）〕

第30回千葉県高文連放送コンテスト

作品名

作者名

タイトル

氏名

フリガナ

部門

朗読

朗読

アナウンス

予選用
番号記入欄

※分かり次第、
自分で記入する
（黒ペン）

本選用
番号記入欄

※11/18の抽選後、
本部が記入
（赤ペン）

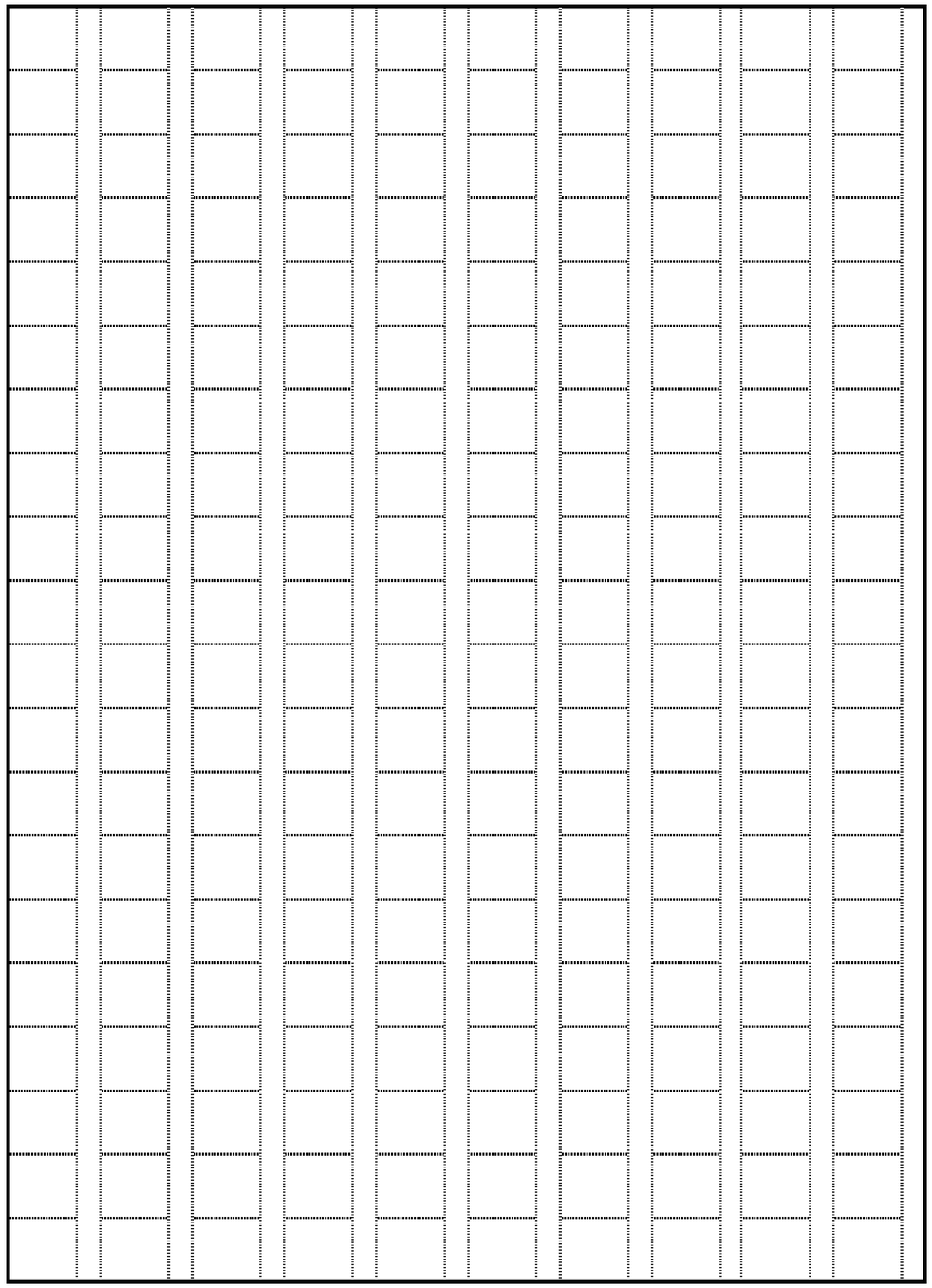
ホチキス留め

ホチキス留め

〔様式２－２〕

学校名

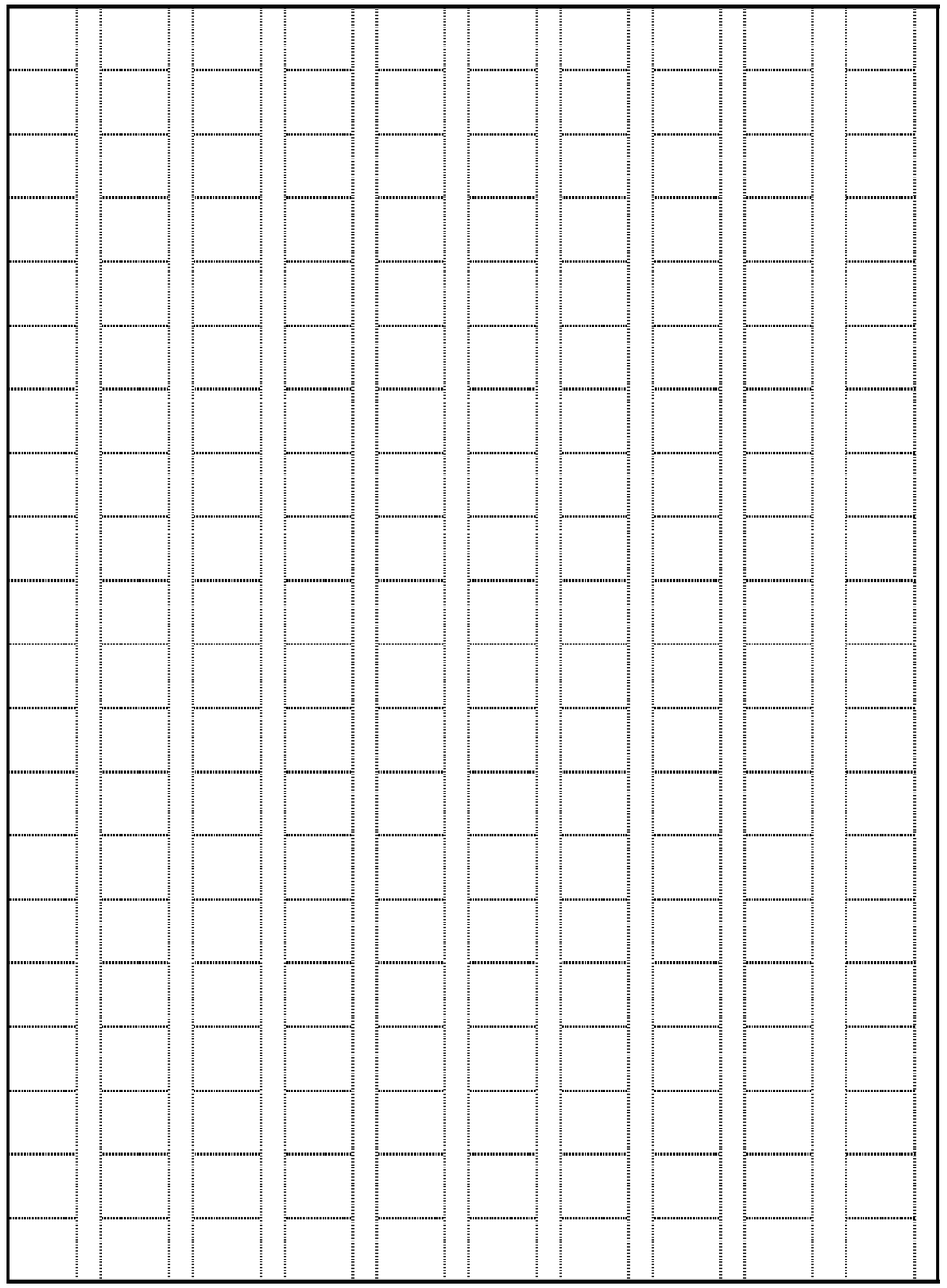
高等学校



千葉県高文連放送コンテスト

山折り

朗読部門では、予選で読む箇所に赤ペンで傍線を引くこと



千葉県高文連放送コンテスト

朗読部門では、予選で読む箇所に赤ペンで傍線を引くこと

校内で挨拶が聞こえます。

「こんにちは」

〜いるとき、

〜だった。

〇〇先生は、

「今日のような〜

〜でしょう」

と語っていました。

〔様式２－１（アナウンス・朗読部門）〕

第30回千葉県高文連放送コンテスト

部門：アナウンス部門

フリガナ：チバ タロウ

氏名：千葉 太郎

タイトル：「こんにちは」から始まる挨拶

アナウンス

作者名：放送 二郎

朗読

作品名：千葉県の高校の不思議

朗読

予選用番号記入欄：32

※分かり次第、自分で記入する（黒ペン）

本選用番号記入欄：

※11/18の抽選後、本部が記入（赤ペン）

←ホチキス留め

ホチキス留め→

〔様式２－２〕

4

学校名

千葉県立〇〇〇〇高等学校

朗読部門では、予選で読む箇所に赤ペンで傍線を引くこと

3

太朗は、

「とりあえず書いてみればいいんだよ」と、

青空を見上げながら言った。五月の心地良い

風が丘を吹き抜ける。木々が揺れる。ふと、

川の方へ視線を向けると、花子が丘を登って

くるのがわかった。

「太朗く

肩をとりながら、花子がやってきた。

朗読部門では、予選で読む箇所に
赤ペンで傍線を引きます。
読む箇所は、抽出箇所の最初(2ページ目)からでなく
ても構いません。
ただし、文の途中から読むことは、好ましくありませ